

令和4年度 施設としての自己評価

千代田 おひさまの森保育園

平素は千代田おひさまの森保育園の運営にご理解ご協力いただきまして、ありがとうございます。
以下の通り、園の自己評価を付けました。今後一層より良い園になるよう職員一同努力してまいります。

【1】どちらかというとできていなかった 【2】どちらかというとできていた 【3】ほぼできていた 【4】よくできていた

年目標	自己評価	内容
●保育内容(今年度の重点)		
・愛着についての理解と愛着形成の実践	3	その瞬間ごとの子どもの想いを考えながら、子ども一人一人が味わう今を丁寧に理解していこうという姿勢が持てた。また職員同士の勤務形態によっても、子ども一人一人との関係をよく理解し、安心して関係が築けるよう隣の職員と声を掛け合いながら、どのように寄り添っていくのかを相談しながら愛着を結ぶことができた。
子ども一人一人との関係を丁寧に築き、愛着を結んでいく。		
・子どもの意欲を伸ばす声掛けの検討と実践	2	月に一度のミーティングで今の子どもの育ちへの理解を深めながら、一人一人に合わせた関わりについて話しあった。ミーティングでは、担任だけでなく様々な職員一人一人が捉えている子どもの姿を伝えあうことができ、一人一人の子どもたちを様々な角度から理解し今に適した配慮を考えていった。職員同士日ごろから共有しようと意識高く行い、ミーティングの様子を動画に撮り参加者からチーム全体に共有するなども試みた。しかし、子どもの育ちが目まぐるしく変化する中で、それを即座にチーム全体に共有したり、関わり方の共通認識を持つ部分で課題が残ったため、今後見直ししていく。
子どもが毎日を主体的に過ごせるよう、個々の発達を捉え、それに合わせた言葉や声の掛け方を考えていく。		
●施設設備		
・保育室環境について	3	各学年ごと過ごす時間を増やしたことで、クラスの中でも個々の育ちや想いにあった過ごし方への意識が高まった。子どもの言動の理由の一つ一つを職員間で想像しながら環境を変えていくことで、変化や成長が見られたときにも、昼礼や月一回の会議で子どもたちの姿に触れ、自分たちの環境作り一つを振り返りながら過ごすことができた。それぞれの理解している子ども一人一人の過ごし方を都度共有できたからこそ、玩具の量から設置方法まで一つ一つ理由を持ちながら検討し改善できた。
各学年ごと、今の育ちを捉え、それにあった環境を都度設定していく。		
・園周辺環境の活用について	3	散歩の振り返りは日常的に職員同士で行っており、園周辺の危険箇所について職員が共通認識を持てるようになった。虫が飛ぶ時間帯など戸外を避けた方がよい季節なども、よく職員同士で声を掛け合いながら子どもの安全に配慮することができていた。
危険個所の見直しを定期的に行っていく。		
●保健・衛生		
・感染症対策について	4	風邪症状がみられると、こまめに共有する意識の高さがあり、拡大防止やその子自身の体調を考えた活動、衣服調節、保護者への共有を職員それぞれで意識して行っていた。感染症の係担当者が細かく記録を取っていたため、感染症についての潜伏期間がわかりやすく振り返りも行いやすくなった。
子供たちの初期症状から体調の変化を記録し職員共有していく。		
●運営		
・行事のありかたについて	4	感染症とうまく付き合っていながらもしっかりと行事の本質を理解した上で実施できるよう常に話し合いを続けていった。行事の意味と合わせて今の子どもたちの育ちにもフォーカスしながら行事を組み立てることができた。
子どもたちの今の成長や行事ならではの姿を届けることができるよう環境に配慮していく。		
・保護者との連携体制について	2	職員間での認識の違いを感じるたび、保護者の方の思いを代弁しながらご家庭それぞれが大事にしていることを知っている情報から伝え合った。保護者の方が秘めた思いに気づくために、送迎時あまり関わることのできない職員からどういった質問をしていくか、どのような言葉で園の思いを伝えていくかを一緒に考えるなど、それぞれの役割が一緒に保護者の方と向き合うことが出来た。一方で様々なご家庭の方がいらっしゃるからこそ、日ごろの保護者の方々とのやり取りの中で、もっと思いに気づけることがあったのではないかと感じる。さらに密に保護者の方々と関係を持ち、連携を深めていけるようにしていく。
職員間での情報共有を行い、共通認識の下園全体でサポートしていく。		
・危機管理について	3	避難訓練や不審者訓練など、チーム全体で実施後丁寧に振り返りを行っていった。職員一人一人が考えながら不安に思ったことなどを出し合う中で、それぞれに大事に思うことをチーム全体に必要な役割まで明確にすることができ、実際に起こることを具体的な状況まで想像していくことができた。
防犯対策や、災害発生時の対応を理解し、職員全員がもしもの事態に対応できるようにする。		

【総評】

平素より園へのご理解とご協力、誠にありがとうございます。7年目を迎え、毎日子どもたち・保護者様が通ってくださっていることに感謝しております。本年度は、子ども一人一人が自分を発揮して伸び伸びと過ごすことができるよう、個々を丁寧に捉え、子どもたちの姿を共有し合いながら改善を図りました。また、お子様の頑張りや味わっていることをお伝えし、一緒に成長を喜べる機会を大切にしてきました。今後も子どもたちが自分らしさを発揮し愛されていることを感じながら日々主体的に過ごすことができるよう、一緒にお子様の育ちを見守らせていただきます。さらに、保護者の方々とも連携を深めていけるよう、子どもが見ている世界や子どもの発達を丁寧に捉えお伝えしながら保護者のみなさまと共に、一緒に育ちを喜び合っていけるよう一層尽力して参ります。今後ともよろしくお願い致します。

令和5年3月1日
園長 渥美 利奈

上記の園自己評価の結果を掲示とともに開示させていただきます。尚この掲示は3/1から来年度4/末日まで開示します。